



- ▶ 学年 小学校 第1学年
- ▶ 単元 きれいに さいてね

POINT 01

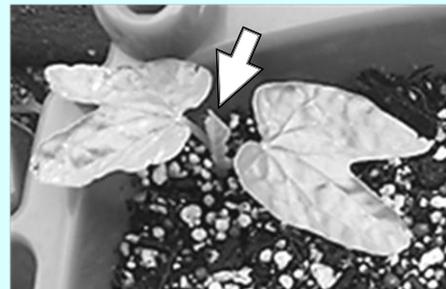
対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

本単元はアサガオの栽培活動を通して、植物の変化や成長、生命の大切さに気付くことをねらいとしている。本時では、発芽したばかりのアサガオについて友達と対話をしながら観察することにより、子どもたちがアサガオの変化や成長に気付くことができるようにしていく。教師は、アサガオの観察の様子や友達との対話の様子から、子どもの気付きを見取り、価値付けていくことで、子どもが自分のアサガオと友達のアサガオとの違いを比べたり、アサガオの変化や成長について予想したりできるようにする。また、もっと詳しく観察したいという子どもの思いに寄り添うことができるよう、虫眼鏡やタブレット等の用具を準備し学習環境を整えておく。

POINT 02

対話的な学びの様子

- ◎ 友達と気付いたことを話しながら、アサガオを観察する。
 - 児童 A 「やっとわたしのアサちゃん（アサガオの名前）にも芽が出てきたよ。」
 - 児童 B 「よかったね、A さん。ぼくのアサガオの芽の間にはね、アサガオの『赤ちゃん』がいるよ。」
 - 教師 「どうして『赤ちゃん』って思ったのかな？」
 - 児童 B 「小さくて、やさしくさわるとやわらかいから赤ちゃんみたいだなと思ったの。」
 - 教師 「よく見つけたね。A さんは『赤ちゃん』がどこかわかるかな？」
 - 児童 A 「本当だ。B さんのアサガオのくきの真ん中に見えるね。いいな。わたしのアサガオにも『赤ちゃん』出てくるのかな。」
 - 児童 B 「出てくるといいね。アサガオの『赤ちゃん』のこと、みんなにも知らせたいな。」
 - 教師 「ほかのみんなの話も聞いてみたいね。」
- ◎ 気付いたことを全体で共有する。
 - 教師 「みんなのアサガオに変わったところがありましたか？」
 - 児童 B 「ぼくのアサガオの芽にはね、『赤ちゃん』がいました。」
 - 児童 C 「どこにいるの？」
 - 児童 B 「（電子黒板にタブレットで撮影した写真を写しながら）ここです。」
 - 児童 D 「わたしのアサガオにもいたよ！」
 - （ぼくのアサガオにもあったよ。）
 - （もっと伸びていきそうだね。）・・・他の児童も次々につぶやく。
 - 児童 A 「それなら、わたしのアサちゃんにもきっと出てくるね。」



子葉の間から出ている新芽を児童 B は「赤ちゃん」と表現した。

—『授業者の視点』—L

（相双教育アピールより）
アサガオとじっくり向き合い観察しながら行う対象との対話、気付いたことへのつぶやきから生まれる友達との対話、それぞれを往還しながら気付きの質を高めていくことが重要である。

POINT 03

学びが深まった児童の姿

児童 A の「わたしのアサガオにも『赤ちゃん』出てくるのかな。」という当初の疑問は、友達との対話を通して「わたしのアサちゃんにも（新芽が）きっと出てくるね。」と、より確信をもった予想（思い・願い）へと変容している。教師は、児童 A と児童 B との対話の中で、児童 B の「アサガオの『赤ちゃん』」という発言に対して、そのように表現した理由を問いかけ、児童 B の気付きをより明らかにし、児童 A にも伝わるようにした。また、「友達の話聞いてみたい。」という子どもたちの思いの高まりを見取り、気付いたことを共有する時間を設定した。これらの教師の働きかけによって、児童 A をはじめとした多くの児童がアサガオの成長について具体的に予想することができるようになったと考えられる。

このような学びが、アサガオを栽培する上で、水やりや追肥等の世話を続けようとする子どもの意欲の高まりにつながる。また、「今日は『赤ちゃん』が出てきたかな。」と毎日繰り返し様子を見にいこうとするアサガオへの愛着にもつながっていく。